

マタイ

33

御言葉の偏食家 からの脱却を!!

マタイ福音書13章24～節

毒麦、からし種、パン種のたとえ

アウトライン

0. イントロダクション

I. 毒麦のたとえ 13:24～30

II. からし種・パン種のたとえ
13:10～17

III. 毒麦のたとえの解説 13:36～43

IV. まとめと適用

御言葉の偏食家からの脱却を





0. イントロダクション

カペナウムの再現図

メシアの生涯

宣教 → 拒絶 → 弟子訓練 → 十字架へ

イスラエル
(指導者)

① 観察

② 審問

③ 審判

ベルゼブル論争

バプテスマ

荒野の誘惑

弟子の召命

宣教開始

メシア的奇跡

安息日論争

たとえ話

五千人の食事

ペトロの信仰告白

山上の変容

最後の弟子訓練

エルサレム入城

最後の晩餐

紀元70年
エルサレム陥落



メシアの活動は、弟子訓練に移行!!

- 「ナザレのイエスは、メシアなのか？」
- サンヘドリン(ユダヤ議会)の公式見解は、
 - ➔イエスの奇跡は、悪霊のかしら(サタン)の仕業
- メシアの活動の中心は、大衆伝道から**弟子訓練**へ
 - ➔対象は、イエスをメシアと信じる者たち

イエスの教えは、「たとえ」中心に!!

たとえ話の特徴

■ 語られるのは、ごく当たり前のこと。

例) 耕された地に蒔かれた種が実を結ぶ

→ 当たり前すぎて、意味が分からない!!

■ 重要なのは、メシアによる解説。

→ 解説なしには、理解不能!!

■ たとえ話のテーマは、「**奥義としての神の王国**」

神の国とは？

メシア拒絶以前

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

モーセ～ゼデキヤ
③神政政治の王国

⑤メシア的王国・千年王国

イスラエルが約束のメシアを受け入れれば、神の国が、地上に実現されるはずだった。

【地上での神の国】

神の国とは？

メシア拒絶以後

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

新天新地

【地上での神の国】

モーセ～ゼデキヤ

③神政政治の王国



④奥義としての王国

「奥義としての神の王国」

■ 区別の仕方はいろいろあるが…。

① 恵みの時代 …メシア拒絶から メシア受容まで
(ベルゼブル論争) (大艱難時代)

② 教会時代 …聖霊降臨から 携拳まで

■ 学問上は、厳密な区分が必要かもしれないが、
聖書は、明確な区分を求めているわけではない。

恵みの時代 ≡ 教会時代 大きな塊としてとらえよう!!

たとえを用いた弟子訓練の意味すること

■ メシア拒絶の時から浮かび上がった「奥義としての王国」
→ 大きく「教会時代」と呼んで差しつかえないだろう

■ 教会は、

- ① 弟子たちの選抜の時に種が蒔かれ、
- ② メシアの拒絶後の弟子訓練の間に、発芽の準備をし、
- ③ 聖霊降臨の時に、発芽した。

弟子訓練から、教会誕生の下準備がなされていく!!



Ⅰ. 毒麦のたとえ

マタイ福音書13章24～30節

イスラエルの麦畑

本編

別なたとえ マタイ13:24~26

イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は次のようにたとえられます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。

ところが人々が眠っている間に敵が来て、麦の中に**毒麦***を蒔いて立ち去った。

麦が芽を出し実ったとき、**毒麦**も現れた。

*赤カビ病に侵された麦?!

➔開花時期に感染しやすい



本編

しもべの提案 マタイ13:27~28

それで、しもべたちが主人のところに来て言った。『ご主人様、畑には良い麦を蒔かれたのではなかったでしょうか。どうして毒麦が生えたのでしょうか。』

主人は言った。『敵がしたことだ。』すると、しもべたちは言った。『それでは、私たちが行って毒麦を抜き集めましょうか*。』

*感染した麦が混入すると全体に悪影響

➡毒麦を抜くのは、当然の対策



本編

主人の命令 マタイ13:29～30

しかし、主人は言った。『いや。毒麦を抜き集めるうちに麦も一緒に抜き取るかもしれない。

だから、収穫まで両方とも育つままにしておきなさい*。収穫の時に、私は刈る者たちに、まず毒麦を集めて焼くために束にし、麦のほうは集めて私の倉に納めなさい、と言おう』」

*収穫時により分けるのも一つの方法

■このたとえで語られた毒麦への対処は、ごく当たり前の話。これだけでは意味不明。





II. からし種のたとえ パン種のたとえ マタイ福音書13:31～33

イスラエルのからし畑

本編

からし種 マタイ13:31~32

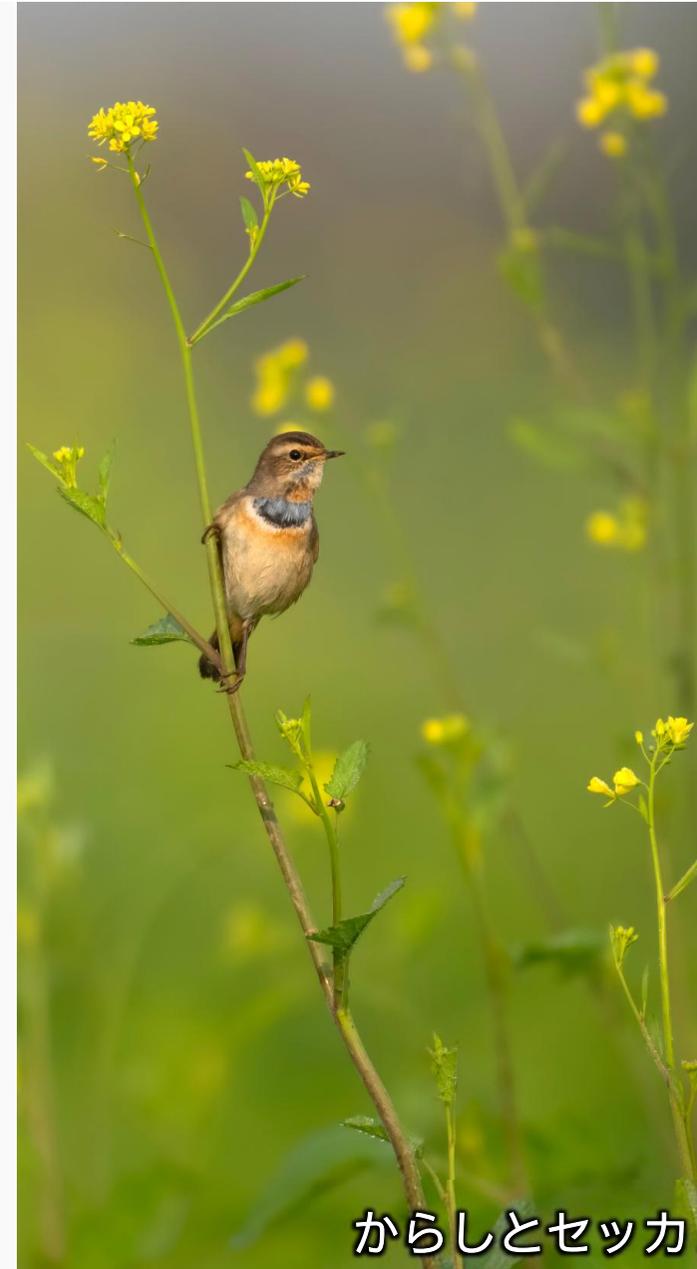
イエスはまた、別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国はからし種に似ています。人はそれを取って畑に蒔きます。

どんな種よりも小さいのですが、生長すると、どの野菜よりも大きくなって木となり、空の鳥が来て、その枝に巣を作る*ようになります。」

*草に巣を作る鳥…ヒバリ、セツカetc

■特別な解説がない、たとえの解釈は、

他のたとえがヒント!! →最初の種蒔き



からしとセツカ

からし種のととえ

たとえ	意味
からし種	教会(奥義としての神の王国)
空の鳥	悪い者(悪魔) …種蒔きのたとえ(13:19)

- 教会は、ごく小さな弟子たちの集団から始まって、大きく成長するが、悪魔が棲みつくようになる。

本編

パン種のたとえ マタイ13:33

イエスはまた、別のたとえを彼らに話された。「天の御国はパン種*に似ています。女の人がそれを取って三サトン*の小麦粉の中に混ぜると、全体がふくらみます。」

*イーストを入れて発酵した生地を保存し、次にパンを作るときに粉に入れた。

*9ℓ …手でこねられる最大量



パン種のたとえ

たとえ	意味
パン種	罪(偽りの教え) …除酵祭(出12:15)
パン生地	教会(奥義としての神の王国)

- 教会に偽りの教えが入り込み、
教会を空虚にふくらませる。

本編

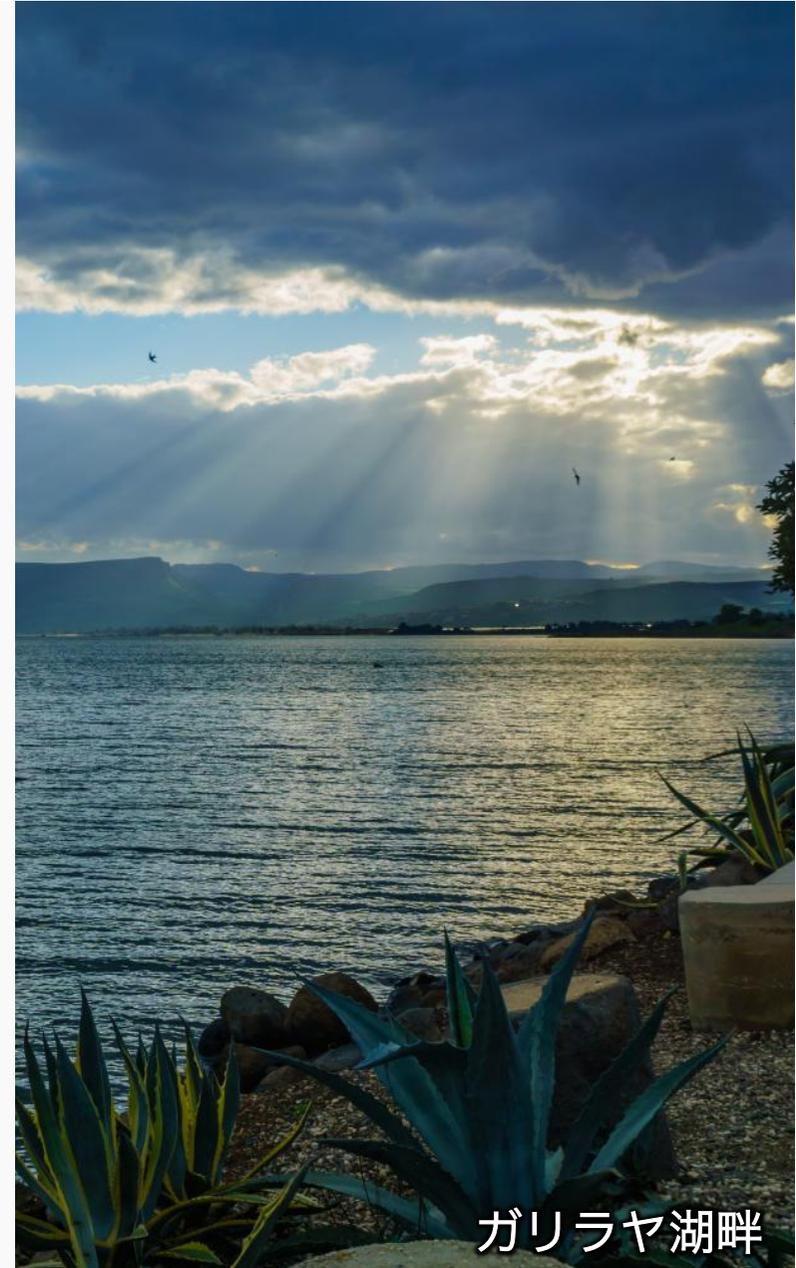
預言の成就 マタイ13:34~35

イエスは、これらのことをみな、たとえで群衆に話された。たとえを使わずには何も話されなかった。

それは、預言者を通して語られたことが、成就するためであった。「私は口を開いて、たとえ話を、世界の基が据えられたときから隠されていることを語ろう*。」

*詩編78:2

■ 隠されていた奥義である神の王国について
メシアは、意味を隠して話されると預言。



ガリラヤ湖畔



Ⅲ. 毒麦のたとえの解説

マタイ福音書13:36～43

イスラエルの麦畑

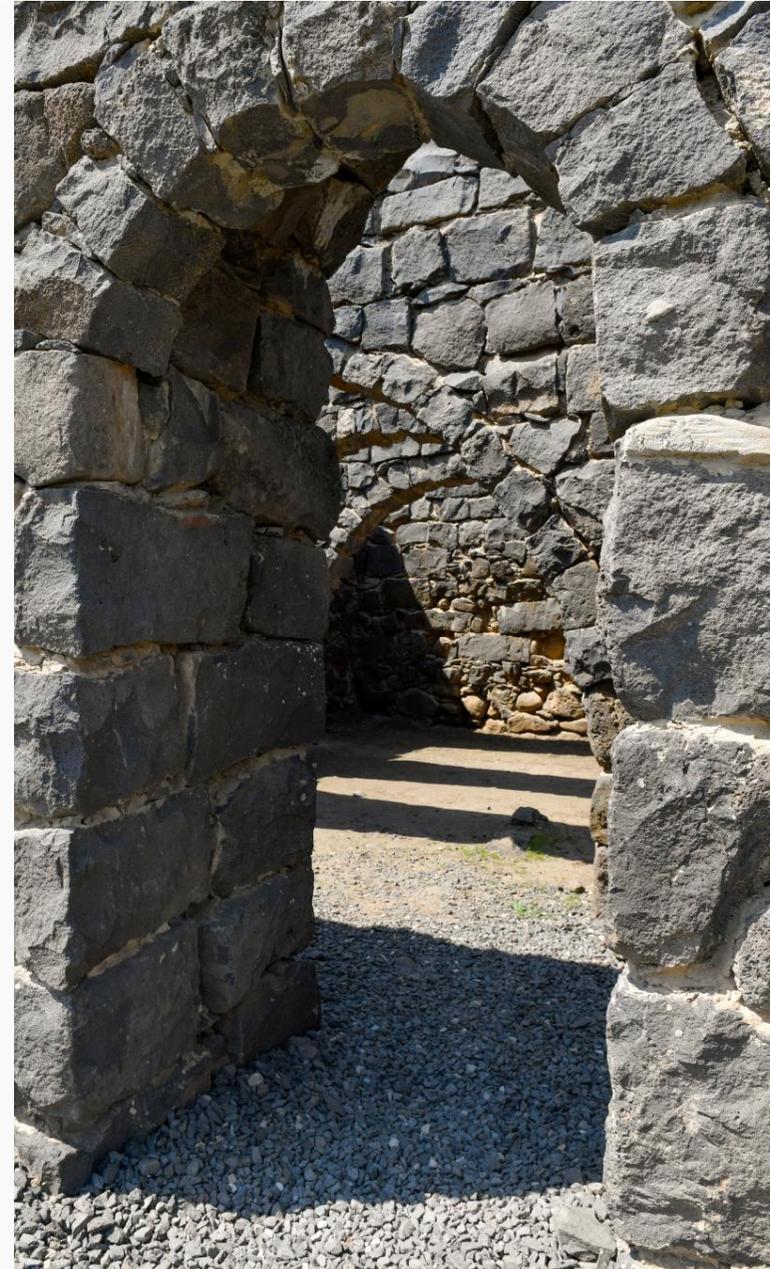
本編

家で マタイ13:36

それから、イエスは群衆を解散させて家に入られた*。すると弟子たちがみもとに来て、「畑の毒麦のたとえを説明してください」と言った。

*カペナウムのペテロの家だろう

■主イエスに付き従う弟子たちだけに、
たとえの真理の解説が!!



本編 たとえの解説 マタイ13:37～39

イエスは答えられた。

「良い種を蒔く人は人の子*です。

畑は世界で、良い種は御国の子ら、毒麦は悪い者の子らです。

毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫は世の終わり、刈る者は御使いたちです。」

*人として来られた、子なる神メシア



本編

世の終わり マタイ13:40~42

ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそのようになります。

人の子は御使いたちを遣わします。彼らは、すべてのつまずき*と、不法を行う者たちを御国から取り集めて、火の燃える炉の中*に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ぎしりする*のです。

*つまずきを与える者(第三版)

*永遠の火の池・ゲヘナ

*永遠の滅び・永遠の苦しみ

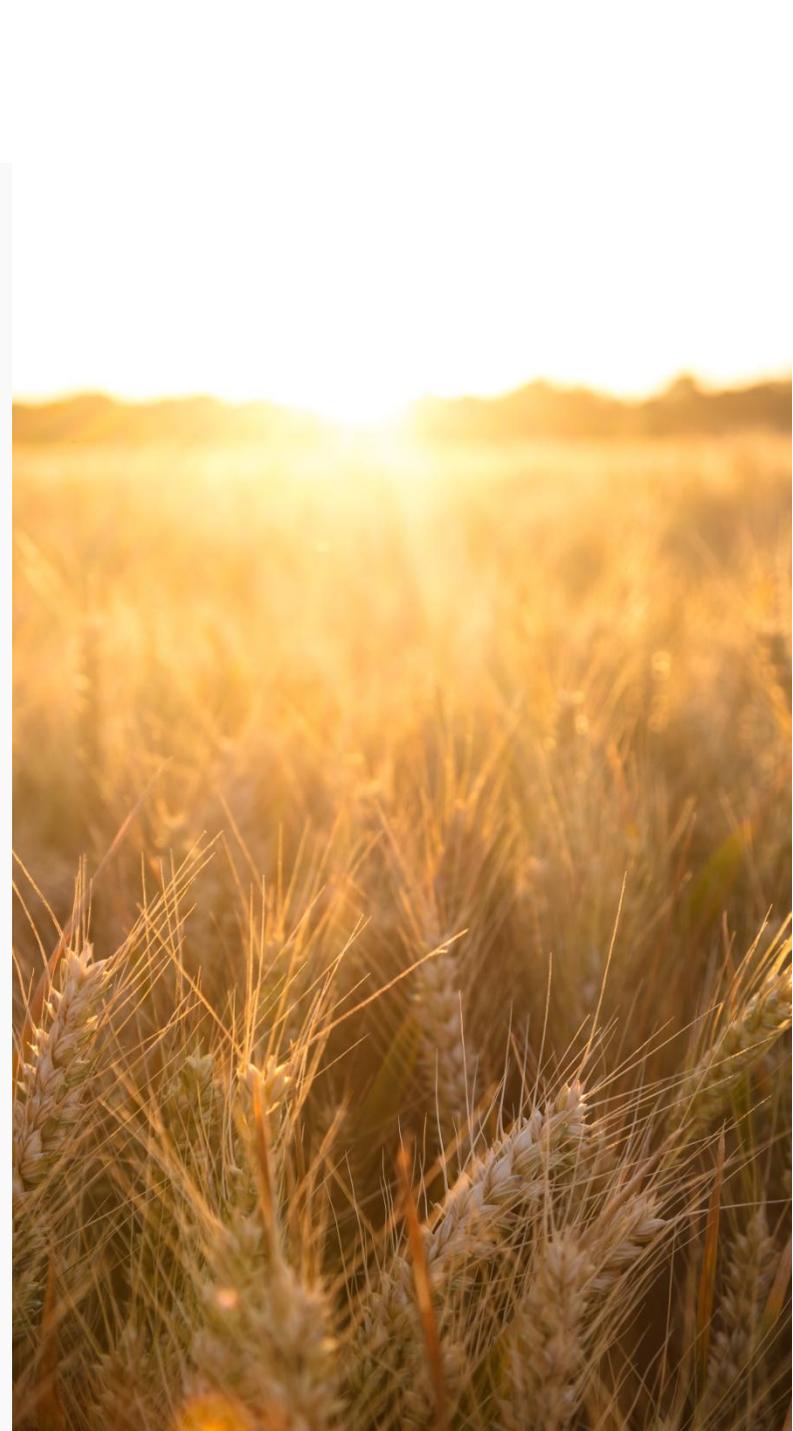


本編

父の御国で マタイ13:43

そのとき、正しい人たちは彼らの父の御国で太陽のように輝きます。耳のある者は聞きなさい。

- へりくだり、主の御言葉に心傾ける者だけが、真理を知ることをゆるされる。



毒麦のたとえが示す 世の終わりの裁きの結果

たとえ	意味	結果
よい麦	御国の子ら (主を信じる者)	神の国で太陽のように輝く → 栄光の体・永遠の命
悪い麦	悪い者の子ら (主に逆らう者)	燃える炉で泣きわめいて歯ぎしりする → ゲヘナ(火の池)・永遠の滅び

- 教会時代には、信仰者にも不信仰者にも神の恵みが。
→ 世の終わりには、より分けられ、厳正な裁きが下る



IV. まとめと適用

御言葉の偏食家からの脱却を

三つのたとえが教える 「教会時代」

- 教会は、わずかな弟子から、はるかに大きな集団へ。
- 教会内には、偽りの教えが蔓延し、悪魔が棲みつく。
- 教会内に、信仰者と不信仰者が混在し続ける。
- 世の終わり、主によってより分けられ、裁かれる。

永遠の御国・栄光の体か 永遠の滅びか

三つのたとえが明確に指摘すること

- 地上の教会は、大きくなるほど、偽りの教えが蔓延。
- 教会が拡大した末に、世界が教会となる?!
 - ➔ 明らかに誤った教会観・偽りの教え
- 福音を伝える機会が増えるのは、歓迎すべきことだが、教勢が拡大する時には、よくよく気を引き締めるべき!!
 - ➔ 激しい霊的戦いと分裂と混乱が待ち構えている

たとえの通りに歩んだ初代教会

- すべてを分かち合う麗しい群れだったエルサレム教会
 - 配給を巡るトラブル
 - アナニアとサツピラの偽善
- 異邦人宣教の広がりと共に…
 - 律法主義者の攻撃
 - 異端的教えの浸透
 - 度を越した自由と放埒

靈的戦いの最前線は、常に教会の内部に!!

あかし

- 福音派、創造論との出会いから始めた聖書の学び直し。
ある時出会ったのが、中川健一牧師のメッセージ。
「メシアの生涯71 からし種のたとえ、パン種のたとえ」
- 目からウロコ。
福音に立ち返って以降、激化していった周囲との対立。
自由主義神学にどっぷり浸っていた教団の現実。

すべては、主イエスが警告された通りだった!!

なぜ教会で？

■なぜ、教会で、こんなことが起こるのか？

悔い改めから始めた、開拓伝道の課程でも…。

世間一般でも珍しいようなことが、教会内で起こる!!

■主イエスのたとえが、突きつけるのは…

➔教会だから、起こる!! ということ

この時代、教会(信仰者の群れ)は、戦いを避けられない

拡大、成長という甘美な罠に気をつけよう!!

■ 苦難、試練の時には、むしろ信仰は強められる。

教会、個人の働きが、拡大、成長するときに要注意!!

■ 典型的な誘惑は…

「より人を惹きつけたい、影響力を広げたい」

➔ 恐怖や不安で縛っていくのは、典型的なカルト的手法

➔ 耳障りのよさ、受け入れやすさに流される傾向が、
どんどん強まっているのが最近。受け狙いの罠!!

えり好みせず、聖書全体を学んで行こう

■ キリスト教の異端は、例外なく、御言葉の偏食家。
信仰の幼子も同様。

➔ 好きな御言葉に、勝手な解釈でしがみついてないか？

■ 歴史書も詩歌も預言も、慰めも叱責も、救いも裁きも、
聖書の御言葉の全体を満遍なく学んで行こう。

聖書が聖書を解釈する 主イエスのたとえも原則は同じ

講解説教の恵み

- 創世記から続けてきた、聖書全体の講解説教
 - ➔ 必死で取っ組み合ってきた、恵みの大きさ
- 初代教会の活動の中心は、御言葉の解き明かし。
 - ➔ 寝落ちする青年がいたほど、難解で骨太。
- 裾野を広げる働きは大切だが、軸をぶらさないように。
罪人にはまず受け入れがたいのが、主の教えなのだから。

★ 御言葉をフルコースで味わおう ★

- 世の終わりが近づくほど、教会の混沌は深まり、霊的戦いは、激しさを増していく。
- たとえを理解する鍵は、聖書が聖書を解釈する大原則。御言葉の偏食家にならないように、聖書全体を学び、主のご計画の全貌を、心に刻みつけていこう。裁きは主に委ねて、人々に福音を宣べ伝えていこう。

永遠の神の王国に至る、確かな一歩を刻んでいこう

てん とう わたし つみ
「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください。

わたし かみ こ しゅ
私たちは、神のみ子、主イエス・キリストが、

わたし つみ あがな じゅうじか し
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

はか ほうむ
②墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③三日目に復活されたこと、を信じます。

しゅ みつ どお きょうかい よ こんとん やみ ふか
主の御告げ通り、教会も世も、混沌と闇を深めていっています。

れいてきたたか しょうり しゅ けんい みことば
霊的戦いへの勝利は、主の権威ある御言葉によってもたらされます。

せいしょ まな ふか しゅ けいかく ぜんぼう し ゆ
聖書の学びを深め、主のご計画の全貌を知らされて行けますように。

さば しゅ ゆだ ふくいん かか つか
裁きは主にお委ねします。福音を掲げつつ、遣わしてください。

かんしゃ しゅ な いの
感謝して、主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン」